

シラバス

指定番号 248

商号又は名称：株式会社サンケン

科目番号・科目名	(1) 職務の理解			
指導目標	研修に先立ち、これからの居宅介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、居宅介護職員がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的にとりくめるようになる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学 学習 時間数	うち 通信学 習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 多様なサービスの理解	2.5	2.5	0	(講義内容) 多様なサービスの理解 ・障害福祉サービス（居宅、施設）・障害児支援（通所・入所）・介護保険サービス・インフォーマルなサービス
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3.5	3.5	0	(講義内容) 居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容・居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ（現場職員の体験談・視聴覚教材の活用など） 補助教材、DVD 使用
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト DVD ミネルヴァ書房
------------	---------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 248

商号又は名称：株式会社サンケン

科目番号・科目名	(2) 介護における尊厳の保持・自立支援			
指導目標	居宅介護職員が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し自立支援のという介護・福祉サービスを提供するに当たっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 人権と尊厳を支える介護	4	1	3	(通信学習課題の概要) 人権と尊厳を支える介護について 100 文字以上のレポート。 (講義内容) 人権と尊厳の保持・個人としての尊重・アドボカシー・エンパワメントの視点・「役割」の実感・尊厳のある暮らし 利用者のプライバシーの保護・介護分野における ICF QOL (生活の質) の考え方・ノーマライゼーションの考え方 虐待防止・身体拘束禁止・障害者虐待防止法・障がい者支援と 養護者支援・個人情報保護法・成年後見制度・日常生活自立支援事業 (演習実施方法) 自立とは何か? 班体制を用いてグループディスカッション
② 自立に向けた介護	3	1	2	(通信学習課題の概要) 自立支援について 10 問 O X テスト (講義内容) 自立・自立支援・ストレングスを着目・動機と欲求・意欲を高める支援・個性・個別ケア (演習) 生きがいて何? 趣味は? 自分の楽しみは? グループディスカッション実施
③ 人権啓発に係る基礎知識	2	2	0	(講義内容) 人権について・人権への取り組み・身近な人権のこと
(合計時間数)	9	4	5	

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト DVD ミネルヴァ書房 介護における尊厳の保持
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指

シラバス

指定番号 248

商号又は名称：株式会社サンケン

科目番号・科目名	(3) 介護の基本			
指導目標	居宅介護職員に求められる専門性と職業倫理の必要性に気付き、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。 居宅介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護職の役割・専門性と多職種との連携	2	1	1	(通信学習課題の概要) 多職種との連携・介護職の職業倫理から 10 問〇Xテスト (講義内容) (演習) 利用者を取り囲む多職種とは何があるか? グループワークを行う。
② 介護職の職業倫理	1	0.5	0.5	(通信課題の概要) 多職種との連携・介護職の職業倫理から 10 問〇Xテスト (講義内容) 介護の倫理・介護職としての社会的責任・プライバシー保護 人権尊重 (演習) 価値観とは～自分と他者との価値観の違いを知る。 グループワークを行う。
③ 介護における安全の確保とリスクマネジメント	2	1	1	(通信学習課題の概要) リスクマネジメントレポート 100 文字以上 (講義内容) 事故に結びつく要因を探り対応していく技術・リスクと ハザードを学ぶ リスクマネジメント・分析の手法と視点・事故報告・情報共有 (演習) 感染の原因と経路・感染に対する正しい知識 施設事故事例について学ぶ。グループワーク
④ 介護職の安全	1	0.5	0.5	(通信学習課題の概要) (講義内容) 介護職の健康管理が介護の質に影響・ストレスマネジメント 腰痛予防に関する知識・手洗い・うがいの励行・手洗いの基本 (演習) 感染症対策 ストレス解消方法についてグループで話し合う。
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト DVD ミネルヴァ書房 3 介護の基本
------------	--------------------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 248

商号又は名称：株式会社サンケン

科目番号・科目名	(4) 介護・福祉サービスの理解と医療の連携			
指導目標	障がい者総合支援制度や介護保険制度を担う一員として最低知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・債務についてその概要を列挙できるようにする。			
目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護保険制度	2.5	0.5	2	(通信学習課題の概要) 介護保険制度・障がい者総合支援制度その他の制度から 10 問〇 X テスト③と同じ (講義) 介護保険創設の背景及び目的動向・ケアマネジメント・ 予防重視型システムへの転換・地域包括支援センターの設置 地域包括ケアシステムの推進・仕組みの基礎的理解・保険制度 としての基本的しくみ・介護給付と種類・予防給付・要介護認 定の手順・制度を支える財源、組織、団体の機能と役割・財政 負担・指定介護サービス事業者の指定 (演習) 各制度について・グループディスカッションを行う。
② 医療との連携とリハビリ テーション	2.5	0.5	2	(通信学習課題の概要) 医療の連携とリハビリテーションについてレポート用紙提出 100 文字以上 (講義) 医行為と介護・訪問看護・施設における看護と介護の役割・連 携・リハビリテーションの理念 (演習) リハビリの種類と方法についてグループディスカッション。
③ 障がい者総合支援制度及 びその他制度	4	0.5	3.5	(通信学習課題の概要) 介護保険制度・障がい者総合支援制度その他の制度から 10 問〇 X テスト①と同じ (講義) 障がい者福祉制度の理念・障がいの概念・ICF (国際生活機 能分類) 障がい者総合支援制度のしくみの基礎的理解・介護給 付・訓練等給付の申請から支給決定まで・相談支援のしくみに ついて・地域生活支援事業の理解 (演習) 各制度について・グループディスカッションを行う。
(合計時間数)	9	1.5	7.5	

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実
施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 248

商号又は名称：株式会社サンケン

科目番号・科目名	(5) 介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	障がい者や高齢者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門的に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解している。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護におけるコミュニケーション	3	1.5	1.5	(通信学習課題の概要) 言語的、非言語的コミュニケーション、共感、傾聴、人生観についてレポート 100 文字以上 (講義内容) 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割・相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮・傾聴・共感の応答・コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション・言語的コミュニケーションの特徴・非言語的コミュニケーションの特徴・利用者、家族とのコミュニケーションの実際・利用者の思いを把握する。利用者の感情に共感する。家族の心理的理解・家族へのいたわりと励まし。信頼関係の形成・自分の価値観で利用者、家族の意向を判断し避難することがないようにする。アセスメントの手法とニーズの違い。 利用者者の状況・状況に応じたコミュニケーション技術の実際 (視力、聴力の障がい・失語症・構音障がい・知的障がい・精神障がい・発達障がい・行動障がい・認知症) (演習) 一方向と双方向のコミュニケーション・グループワーク実施
② 介護におけるチームのコミュニケーション	3	1.5	1.5	(講義内容) (通信学習課題の概要) 記録における情報の共有化・介護における記録の意義、目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録・介護に関する記録の種類 個別支援計画書(訪問系・日中活動系・居住系・補装具等)・ヒヤリハット報告書・5W1H・報告連絡相談の留意点 コミュニケーションを促す環境・会議・情報共有の場・役割認識の場(利用者と頻りに接触する介護者に求められる観察眼)・ケアカンファレンスの重要性 (演習) 閉ざされた質問・開かれた質問について グループディスカッションを実施する。
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト DVD ミネルヴァ書房 5 介護におけるコミュニケーション技術
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 248

商号又は名称：株式会社サンケン

科目番号・科目名		(6) 老化の理解			
指導目標		加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)	
① 老化に伴うところとからだの変化と日常	3	1.5	1.5	(通信学習課題の概要・講義内容) 老年期の発達と変化に伴う心身の変化の特徴・防衛反応(反射)の変化・喪失体験。老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響・身体的機能の変化と日常生活への影響・咀嚼機能の低下・筋・骨・関節の変化・体温維持機能の変化・精神的機能の変化と日常生活への影響	
② 高齢者と健康	3	1.5	1.5	(通信学習課題の概要・講義内容) 高齢者の疾病と生活上の留意点。骨折・筋力の低下と動き・姿勢の変化・関節痛・高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点。循環器障がい(脳梗塞・脳出血・虚血性心疾患)・循環器障がいの危険因子と対策・老年期うつ病症状(強い不安感・焦燥感を背景に訴えの多く出るうつ病性仮性認知症、行動障がい)・誤嚥性肺炎・病状の小さな変化に気づく視点・高齢者は感染症にかかりやすい。	
(合計時間数)	6	3	3		

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト DVD ミネルヴァ書房 6 老化の理解
------------	--------------------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 248

商号又は名称：株式会社サンケン

科目番号・科目名	(7) 認知症の理解			
指導目標	介護において認知症・行動障がいを理解することの必要性に気づき認知症・行動障害の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 認知症を取り巻く状況	1	0.5	0.5	(通信学習課題の概要) 認知症を取り巻く環境から 10 問 O X テスト (講義内容) 認知症ケアの理念・パーソンセンタードケア・認知症ケアの視点(できることに着目する) (演習) 認知症になったら告知してほしいか? インフォームドコンセント〜グループディスカッションを実施する。
② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2	1	1	(通信学習課題の概要・講義内容・演習) 認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別のケアのポイント、健康管理
③ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2	1	1	(通信学習課題の概要) アルツハイマー型認知症からくるこころとからだの変化について 100 文字以上レポート (講義内容) 認知症の人の生活障がい、心理・行動の特徴・中核症状・心理症状・不適切なケア・生活環境で改善 認知症利用者への対応(本人のきもち・プライド・相手の世界に合わせる) 認知症の進行に合わせたケア (演習) 非薬物療法・回想法・音楽療法について グループワーク実施
④ 家族への支援	1	0.5	0.5	(通信学習課題の概要・講義内容) 認知症・行動障がいの受容過程での援助・利用者への関わり方の共有・介護負担の軽減(レスパイトケア) (演習) 認知症を持つ人、本人の声・認知症との出会い・その支援についてグループディスカッション
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト DVD ミネルヴァ書房 7 認知症の理解
------------	---------------------------------------

シラバス

指定番号 248

商号又は名称：株式会社サンケン

科目番号・科目名	(8) 障がいの理解			
指導目標	障がいの概念と ICF、障がい者福祉の基本的考え方について理解し 介護における基本的な考え方について理解している。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 障がいの基礎的理解	1	0.5	0.5	(通信学習課題の概要・講義内容) 障がいの概念と ICF・ICF の分類と医学的分類・考え方。 障がい者福祉の基本理念・ノーマライゼーションの概念
② 障がいの医学的側面、生活障がい、心理行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1	0.5	0.5	(通信学習課題の概要・講義内容) 身体障害、知的障害、精神障害において 医学的側面からの生活障害、心理行動の特徴、関わり支援 などの基礎的知識を学ぶ。
③ 家族の心理、かかわり支援の理解	1	0.5	0.5	(通信学習課題の概要・講義内容) 家族への支援・障がいの理解・障がいの受容支援・従事者として 家族へのかかわり方の理解・介護負担の軽減
(合計時間数)	3	1.5	1.5	

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト DVD ミネルヴァ書房 8 障がいの理解
------------	---------------------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 248

商号又は名称：株式会社サンケン

科目番号・科目名	(9) ア こころとからだのしくみと生活支援技術 (基本知識の学習)			
指導目標	介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解する。基礎的な一部、又は全介助などの介護が実施できるようにする。 尊厳を保持し、その人の自立を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域での生活を支える介護技術や知識を習得する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護の基本的な考え方	2	1	1	(通信学習課題の概要) 介護の基本的な考え方から〇Xテスト出題 (講義内容) 倫理に基づく介護 (ICFの視点に基づく生活支援、我流解除の排除) 法的根拠に基づく介護
② 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	4	2	2	(通信学習課題の概要・講義内容) 学習と記憶の基礎知識・感情と意欲の基礎知識・自己概念と生きがい・障がいや老化を受け入れる適応行動とその阻害要因・こころの持ち方が行動に与える影響
③ 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	5	3	2	(通信学習課題の概要) ボディメカニクスの原則と介護への活用について 100文字以上レポート (講義内容) 人体各部の名称と動きに関する基礎知識・骨格・関節・筋に関する基礎知識・中枢神経と体性神経に関する基礎知識・自律神経と内部機関に関する基礎知識・こころとからだを一時的にとらえる・利用者の普段の様子との違いに気づく視点 (演習) ボディメカニクスの原則と介護への活用 バイタルチェック 補助教材 DVD 使用
合計時間数	11	6	5	

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト DVD ミネルヴァ書房 9 こころとからだのしくみと生活支援技術
------------	---

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 248

商号又は名称：株式会社サンケン

科目番号・科目名	(9) イ こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	移動においては様々な状態にある人の尊厳保持・その人の自立・自律を尊重し潜在能力を引き出すことについての適切で安全な基本技術を習得する。 健康・身支度・食事では、それぞれにおける行為の生理的意味や機能低下が及ぼす影響について学び安全・安楽を考慮した援助を行うために必要な知識を身に着け技術の実際に関わり付けていく。全介助・部分介助・適切な声掛け			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
④ 生活と家事	6	4	2	(通信学習課題の概要)(講義) 家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援 生活歴・自立支援・予防的な対応・主体性、能動性を引き出す 多様な生活習慣・価値観
⑤ 快適な居住環境整備と 介護	5	4	1	(通信学習課題の概要)(講義) 快適な居住環境に関する基礎知識、障がい者・高齢者特有の居 住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法 家庭内に多い事故・バリアフリー・住宅改修・福祉用具貸与
⑥ 整容に関連したこころと からだのしくみと自立に 向けた介護	6	6	0	(講義・演習) 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 整容に関する基礎知識、整容の支援技術 身体状況に合わせた衣服の選択、着脱・身支度・整容行動・ 洗面の意義・効果 補助教材DV使用・衣類上下・くし・洗面用具・クリームなど
⑦ 移動・移乗に関連した こころとからだのしくみ と自立に向けた介護	12	12	0	(講義・演習) 移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する 用具とその活用方法、利用者、介助者にとって負担の少ない 移動・移乗を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法 移動と社会参加の留意点と支援 利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法・利用者の自然な動 きの活用・自立支援・重心、重力の働きの理解・ボディメカニ クスの基本原理・移乗介助の具体的な方法(車いすへの移乗の 具体的な方法、全面介助でのベッド・車いす間の移乗、全面介 助での車椅子・洋式トイレ間の移乗)・移動介助(車いす・歩行 器・つえ等)・褥瘡予防 補助教材DVD使用・車いす・歩行つえ・アイマスク
⑧ 食事に関連したこころと からだのしくみと自立に 向けた介護	6	6	0	(講義・演習) 食事に関する基礎知識・食事環境の整備・食事に関連した用具・ 食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻 害するこころとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参 加の留意点と支援 食事をする意味・食事のケアに対する介護者の意識・低栄養の 弊害・脱水の弊害・食事と姿勢・咀嚼・嚥下のメカニズム 空腹感・満腹感・好み・食事の環境整備(時間、場所等)食事 に関連した福祉用具の活用と介助方法・口腔ケアの定義・誤嚥性 肺炎の予防 補助教材DVD使用・お弁当で食事介助・自助具

⑨ 入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6	0	(講義・演習) 入浴清潔保持に関する基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 羞恥心や遠慮への配慮・体調の確認・全身清拭(身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方)・目・鼻腔・爪の清潔方法・陰部清浄(臥床状態での方法)・足浴・手浴・洗髪 補助教材 DVD 使用・入浴準備・洗面器など
⑩ 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6	0	(講義・演習) 排泄に関する基礎知識・さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法。爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法・排泄とは・身体面(生理面)での意味・心理面での意味・社会的な意味・プライド・羞恥心・プライバシーの確保・オムツは最後の手段、オムツ使用の弊害・排泄障がいがある日常生活上に及ぼす影響・排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連・一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法・便秘の予防(水分摂取量保持、食事内容の工夫、繊維質の食事を多く取り入れる、腹部マッサージ) 補助教材 DVD 使用・車椅子・尿取りパッド・オムツ・尿器(男女の違い)ポータブルトイレ
⑪ 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	4	4	0	(講義・演習) 睡眠に関する基礎知識・さまざまな睡眠環境と用具の活用方法 快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 安眠のための介護の工夫・環境の整備(温度、湿度、光、音よく眠るための寝室・安楽な姿勢・褥瘡予防)
⑫ 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと自立に向けた終末期介護	3	3	0	(講義・演習) 終末期ケアに関する基礎知識とところとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うところの理解。苦痛の少ない死への支援・終末期ケアとは・高齢者の死に至る過程(高齢者の自然死、老衰・癌死)・臨終が近づいたときの兆候と介護・介護従事者の基本的態度・多職種間の情報共有の必要性
合計時間数	54	51	3	

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト ミネルヴァ書房 9 ところとからだのしくみと生活支援技術 ベッド・車椅子・ポータブルトイレ・簡易浴槽等
------------	---

シラバス

指定番号 248

商号又は名称：株式会社サンケン

科目番号・科目名	(9) ウ こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	他の科目で学習した知識や技術を統合して介護過程を展開し、介護計画を立案し適切な介護サービスの提供ができる能力を養い、利用者や家族の介護問題を総合的に理解し、計画的・効率的に介護を実践することの重要性を実感する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
⑬ 介護過程の基礎的理解	6	2	4	(通信学習課題の概要) 介護過程の基礎的理解から 10 問〇×テスト (講義・演習) 介護過程の目的と意義、介護過程の展開、介護過程とチームアプローチ。
⑭ 総合生活支援技術演習	4	4	0	(講義・演習) 要介護者・家族介護者への援助 生活の各場面での介護については、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点の習得を目指す。 事例の提示→こころとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題 事例は異なる障がい分野から 2 事例を選択して実施する。
合計時間数	10	6	4	
9 総合時間数	75	63	12	

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト ミネルヴァ書房 9 こころとからだのしくみと生活支援技術 ベッド・車椅子・ポータブルトイレ・簡易浴槽・オムツ・リハビリパンツなど
------------	--

シラバス

指定番号 248

商号又は名称：株式会社サンケン

科目番号・科目名	(10) 振り返り			
指導目標	研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだ事について再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の研成、学習課題の認識を図る。 継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識を図る。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 振り返り	2	2	0	(講義内容) 研修を通して学んだこと・今後継続して学ぶこと 根拠に基づく介護についての要点（利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体、心理、社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等）
② 就業への備えと研修終了後における事例	2	2	0	(講義内容) 継続的に学ぶべきこと 研修終了後における継続的な研修について具体的にイメージできるようにする。
合計時間数	4	4	0	

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト ミネルヴァ書房 振り返り 10 ベッド・車椅子・ポータブルトイレ・簡易浴槽等
------------	---

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。